

「兵庫と特攻」写真は語る

加古川空襲前後のものも展示

太平洋戦争末期に、特攻機が出撃した加古川(加西市加古川町)、加古川、三木の3飛行場について紹介する展示会「戦後70年 兵庫の飛行場と特別攻撃隊」が30日、加古川市加古川町北在家の市民会館1階ロビーで開かれた。米軍機による同市への空襲前後の写真が初めて展示された。

展示会は日本青年会議所(JC)兵庫ブロック協議

会のイベントの一部とし



米軍機が加古川市内を攻撃した前後の写真に見入る人ら(加古川市民会館で)

て、「加古川飛行場を記録する会」「加古川平和祈念の碑保存会」などが主催した。

戦艦機「紫電」の模型など約50点を展示。大分県宇

三和印房

大切なハンコ……
288-1218

佐市で戦史を研究する同市職員織田祐輔さん(29)が発掘した、1945年7月30日、加古川市への空襲の際、米軍が戦艦機のカメラで撮影した写真も紹介された。空襲では、織物工場が銃撃されるなどし、2人が死亡、負傷者も多数出たという。工場近くに自宅があり、壁に弾痕が残っていたという同市平岡町の安藤茂子さん(67)は「母が『あの時は本当に怖かった』とよく話していた」と話した。

元特攻隊員で、終戦間際に加古川から徳島飛行場に転属し、出撃命令が直前に取り消されたという宮崎亘さん(90)(神戸市長田区)は自分が写った写真を眺めながら、「エンジンをかけ、出撃を待っていた時のもの。悲惨な戦争はもうやってはいけない」と訴えた。JCのイベントで講演するため訪れた、茶道裏千家

前家元・千玄室さんも展示を見学。自身も元特攻隊員の千さんは、宮崎さんが同じ徳島航空隊在籍だったと知ると握手を交わし、「徳島ですれ違っていたはず。お互い元気でいましょう」と笑顔を見せた。